

+ Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

平成二十年度

入学式



平成二十年度日本赤十字北海道看護大学入学式が四月七日に挙行されました。新入学生は修士課程四名、学部一七名であり、入学紹介に続いて石井トク学長の式辞がありました。石井学長は、赤十字の人道と博愛および建学の理念について語られつつ、変革期にある医療を担う専門職たるべく、常に自問しながら人格を陶冶する必要性を強調されました。

大塚義治日本赤十字学園理事長（山田史常務理事代読）からは、赤十字の大学で看護を学ぶ意義を



新入学生代表

再考しながら研鑽に努めてほしいとの訓辞がありました。また、来賓の神田孝次北見市長、および伊藤藤義郎日本赤十字社北海道支部長（中島昇事務局長代読）からは、技術と知識を修得して人のために尽くすことは地域社会に希望を与えることにもつながるため、ボランティア活動などにも取り組んでほしいとの祝辞を頂きました。在校生代表の澤野裕哉自治会長は、全国から集う多くの友人との交流や一言では語れない生活が待ち受ける魅力を語り、新入生を歓迎しました。最後に、新入学生代表の青柳利恵さんが誓いの言葉を爽やかに述べ、感動のなか閉式となりました。

平成20年度入試概況

試験区分	推薦入学試験		一般入学試験	大学入試センター試験 利用入試	社会人入学試験
	公募推薦	指定推薦			
募集人員等					
募集人員	35名	10名	45名	10名	若干名
志願者数	51名	10名	139名	95名	8名
受験者数	51名	10名	134名	95名	8名
合格者数	41名	10名	90名	44名	6名
実質倍率	1.2倍	1.0倍	1.5倍	2.2倍	1.3倍

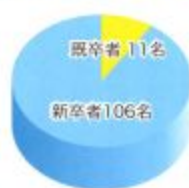
■入学者（出身高校）都道府県別内訳

北海道（110名）・秋田県（1名）・福島県（2名）
東京都（2名）・愛知県（1名）・和歌山県（1名）

男女別内訳



新卒・既卒者内訳



看護学部ならびに大学院研究科新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。教職員一同を代表して心より皆様を歓迎いたします。看護の道を志した皆様は、将来、看護専門職として、人々のあらゆる健康問題をにやう社会的役割があります。個々の生命と健康を守り、人間の尊厳を尊重する赤十字のhumanityの理念は、今世紀の生命科学が進展する時代にあつて、最も必要とされる倫理観でもあり

ます。本学の特徴は、社会の変革と高度化した医療に伴う諸問題に適切に対応する人間性を培うための豊富な教養的学問と看護の専門的知識の修得、確実な看護技術の提供およびhumanityに基づいた倫理的判断力を養う教育にあります。本学では近年の社会のニーズに応えるために、平成二十一年から「助産学専攻の増設」、「感染症看護・がん看護専門看護師コースの設置」、「がん化学療法看護認定看護師教育課程の開設」、「札幌サテライトの開設」などを実現する準備を進めております。皆様には、本学の学生であることを誇りに思い、品性を保ちつつ学び、さらに大学院で看護を探索して下さることを願っています。人々に最善の看護を提供できる皆様の可能性を祈念しています。



学長
石井トク

新入生歓迎の
いっしょ

平成十九年度卒業式

— 大学院生 四名修了 学部生 一〇六名卒業 —

平成二十年三月十二日、本学講堂において看護学研究科修了式ならびに看護学部卒業式が関係者の見守るなか厳粛に執り行われ、石井学長が就任されてから初めての卒業式であり、一〇六名(女性九二名、男性一四名)の卒業生を送り出すことになりました。出席者全員で御歌「四方の国」を斉唱し、続いて、石井学長より修士学位記が研究科修了生四名(代表 正源美穂さん)、卒業証書ならびに学位記が学部卒業生二〇六名(代



表・安藝依澄さん)に手渡されました。その後、石井学長より、卒業生へ贈る言葉として、「石の上にも三年」、常になぜと問いかける姿勢、「人間を救うのは人間である」という三つの言葉が贈られ、これらの集積が看護の道を育てることになるので、人道と博愛の精神を大切にして、それぞれの場で活躍することを期待します。」との式辞がありました。引き続き、大塚義治日本赤十字学理事長(本多典久常務理事代読)、神田孝次



卒業生代表

北見市長(亀田博副市長代読)、伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長(沼田果子副支部長代読)から祝辞を賜りました。在学生を代表して渡辺温子さんが「大学での思

第6回卒業生の進路について

	道内	道外	合計
赤十字関係	48	10	58
大学附属病院	10	7	17
国公立医療機関	6	4	10
公営・各種団体医療機関	6	2	8
医療法人	6	1	7
行政機関	3		3
進学	1		1
その他	2		2
合計	82	24	106

■赤十字関係内訳

【道内】
北見赤十字病院、旭川赤十字病院、釧路赤十字病院、栗山赤十字病院、浦河赤十字病院、清水赤十字病院、釧路赤十字病院、函館赤十字病院、伊達赤十字病院

【道外】
静岡赤十字病院、名古屋第一赤

十字病院、名古屋第二赤十字病院、長岡赤十字病院、日本赤十字社和歌山医療センター、武蔵野赤十字病院、仙台赤十字病院、さいたま赤十字病院、八戸赤十字病院

■進学

旭川高等看護学院(助産学科)

学生相談室より



カウンセラー
澤田和美

い出は得がたい心の中の財産となつていてと思います。これから進む道は困難があるかもしれませんが、この四年間学んだことをいかして頑張ってください。益々のご活躍をお祈りしています。」という送辞を読み上げ、卒業生を代表し、清水道子さんが「本学で学んだ知識と赤十字の理念を基に、社会に

貢献し、幅広く活躍していきたいと思えます。」との答辞を述べ、医療スタッフとしての第一歩を踏み出す決意を新たにしました。祝電の披露、卒業生記念品、花東贈呈と続き、最後に「ほたるの光」を全員で斉唱し、式を終りました。

こんにちは、学生相談を担当しています澤田和美と申します。普段は北見赤十字病院で臨床心理士として勤務していますが、昨年十月から月二回(金曜日十一時三十分〜十三時)、看護大学内保健室で学生相談を行っています。学生相談という皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。学業や就職の悩みを相談する、自分の性格について相談する、カウンセリングを受ける、確かにそういった面もありますが、学生相談室はもっと広く門戸を開いています。学生相談は悩みの種類も、悩み事、大学の先生に話を聞いても

6月の開催予定

6月6日(金)
6月13日(金)
11時30分から13時まで

メールアドレス
counselor@rchokkaido-cn.ac.jp

らうなど、相談してスッキリできればOK。けれども親しい存在だから、心配かけたくないから話せないということもありますよね。そんな時はぜひ学生相談室に立ち寄ってみてください。学生相談は、あなたの気持ちの整理や、どうしたいのかを考えるお手伝いをします。話した内容や個人情報漏れる事は一切ありません。まずはどんな所か、気軽に立ち寄ってみてください。直接の来室でも構いませんが予約優先です。予約は学生課を通す(メール、電話あるいは窓口)か、counselorの学内メールアドレスで直接申し込んでください。ご連絡お待ちしております。

新任教員紹介①



精神看護学領域
教授 澤田愛子

昨年十一月に赴任し、さつそく凍結した坂道で転倒、骨折。どうなるのやらと心配しましたが、

どうか最初の冬をクリアしました。以降、転ばぬことを最優先し、杖をつくようにしていたが、バスの運転手さんにある日、「おばあちゃん」と初めて呼びとめられ、まだショックがさめやらぬ今日この頃です(?)。

本学では精神看護学を担当させて頂いておられます。精神という人間の深みに迫りながら、この風光明媚な北の大地で最善を尽くしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。なお、趣味など個人情報に個別対応で密かに(?)お教えしますので、いつでも研究室のドアを叩いてください。



母性看護学・助産学領域
教授 柳原真知子

母性看護学・助産学担当です。

助産師として臨床経験一四年、教員経験一二年です。母乳育児のケアと研究を長年行ってきたのと「乳房ケア」の科目を担当していたので、前任校の院生から「おっぱい工場長」の称号をいただきました。私のモットーは、「女性は太陽である」です。女性がハッピーであれば、子どもも男性もハッピーです。

今の関心は、男性が父親になるためのサポートです。お産の時の男性の涙にいつも感動しています。生まれ出る命に愛を持って接することのできる看護師・助産師になりましょう。



母性看護学・助産学領域
教授 日隈ふみ子

この度、赴任して参りました日隈(ひのくま) ふみ子と申します。四月一日の思わぬ大吹雪の洗礼にはびっくりした反面、九州出身の私にとってサラサラ雪に触れるのは嬉しくもありました。ただ真冬の生活が更に心配になりましたが...

国際医療福祉大学大学院で助産学教育に従事し第一期生を輩出したところでこちらに参りましたが、本学大学院における助産学教育開

シリーズ 研究と私



基礎看護学領域
講師 寺島泰子

看護管理を研究テーマに「臨床に還元できる研究」を目指しています。これまでに、看護職の仕事モラールと看護管理者のリーダーシップとの関連や、リスクマネジメントの観点からインシデント・アク

シデントと実践知識について研究し、二〇〇六年日本看護研究学会発表「大学卒業新人看護師の注射に関する習得とインシデント・アクシデント経験との関連」は、翌年の日本看護研究学会北海道地方会で研究奨励賞を頂きました。現在は、日本学術振興会科学研究費補助金を受け、慢性疾患医療の臨床から協力を得て、外来治療患者のニーズに対応する看護システムについての研究調査を継続しています。また、他の病院の看護研

究にも助言者として関わっています。臨床の看護部門からは、自分たちの看護が明確になる、結果が看護に反映されるなどうれしい評価を頂きました。私が目指す「臨床に還元できる研究」に多少近づけたのではと思いいながらも、実のところは、臨床看護師さんたちの豊富な経験から表出されるさまざまな示唆に、「アイデア・ゲット」とトクした気持ちで心中つぶやくこと多い研究活動です。今後も臨床看護の進歩を視野に、研究に取り組みたいと考えています。



地域看護学領域
講師 武田富美子

設は特に期待感でいっぱいです。どうぞよろしくお願致します。

「若い人に負けないで頑張りなさいよ」と住民の方から励ましの言葉をいただいた本学に就職しました。市町村保健師としての勤務が長く教育現場は初めての経験で緊張の毎日です。看護の視点をいかした事業や地域づくりを住民の人たちと一緒に上げる面白さ、楽しさを学生の皆さんに伝えられたらと思っています。



小児看護学領域
講師 高橋 亮

皆さま、はじめまして。小児看護学を担当致します。高橋亮と申します。これまで、国立小児病院(現、国立成育医療センター)や大病院で看護師として臨床経験を積み、神奈川県内にある看護短大の教員を経て、本学に参りました。東京近辺での生活しか知らない私にとって、北海道の生活は未知の世界です。本学で皆さまの成長と共に自分も成長して、共に大きく飛躍できるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願致します。



母性看護学・助産学領域
助教 齋藤恵梨子

四月より母性看護学・助産学領域の助教として着任いたしました齋藤恵梨子です。これまでの臨床や研究で関わった患者様やご家族の皆様から、人間が持っている痛みなどを乗り越える力を感じさせていただき、また、それらをも乗り越える喜びを教えてくださいました。このような私が学んできたことを演習・実習などを通して学生と共有し、看護のすばらしさを考えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。

新任教員紹介②



小児看護学領域
助手 前田陽子

私は、旭川赤十字病院で小児・内科の混合病棟に勤務していました。臨床の場でさまざまな疾患の子どもたちやご家族の方と関わる中、子ども達の生命力や母親が子を守る思いの強さなど、看護を通して多くのことを学んできました。私が臨床の場で吸収してきたことを環境の場で少しでも役立てていきたいと思っています。教育というフィールドは初めてですので新たな気持ちで頑張りたいと思います。よろしくおねがいいたします。



母性看護学・助産学領域
助手 若王子未

本学卒業後、北見赤十字病院周産期母子センターでの五年間の勤務を経て、母性看護学・助産学領域の助手になりました。臨床では、関わってきたたくさんのお母さまやご家族、そして生まれてきた赤ちゃんから学ばせていただき、また学生指導を通して教育の楽しさ

や難しさ、自分自身どうあるべきかを考えさせられました。教員として実際に教育に携わるのは初めてですが、看護の志をもって歩む学生の力になれるように努めていきたいと思っています。



基礎看護学領域
助手 上笠千春

私は、当大学の一期生です。卒業後は大病院で看護師として五年間働いていました。臨床では、様々な状況にある患者に関わり、個々に合わせたケアを考え悪戦苦闘しながらも毎日を楽しんで過ごしていました。一方で、ケアの根拠を考えるとこれで良かったのか、と立ち止まることも多々ありました。四月より母校に戻り、教育を通して看護を再度学ぶ機会を得ましたが、私が体験してきた臨床の楽しさを後輩たちに伝えていきたいと思っています。



老年看護学領域
助手 杉田恵美

四月から老年看護学領域の助手に着任いたしました。



大学基準に「適合」認定

二〇〇二年の学校教育法の改正により、すべての大学は文部科学省認証の評価機関による七年に一回の定期的な外部評価を受けることが義務化されました。このたび本学は、財団法人大学基準協会による二〇〇七年度大学評価ならびに認証評価を受け、同協会の定める大学基準に適合しているとの認定を受けました。

教職員人事

【退職】平成二十年三月三十一日付け
講師 小山満子、羽原美奈子
助手 常田美和、堀口重矢

【採用】平成二十年四月一日付け
教授 柳原真知子、日隈ふみ子
講師 武田富美子、高橋 亮

校歌の募集

本学の校歌を一般公募いたします。当初は学内の関係者を対象にした募集を行い二件の応募がありました。今回は広く一般の方を対象に公募を行っています。募集期間は今年の六月三十日まで、最優秀作品には二〇万円、優秀作品(二点)は二万円の賞金が送られます。詳しい内容は、本学のホームページに募集要項を掲載していますのでご不明な点がありましたら総務課までご連絡下さい。



編集後記

四月一日の大雪は、道産子の筆者にとっても環境破壊の進行を痛感させる出来事でした。恐らく、初めてオホーツクに暮らし始めた方々にとっては、心細さを募らせるエイプリルフールだったのではないのでしょうか。

しかし、ご安心下さい。この小誌が皆様のお手元に届く頃には、間違いなく春を実感できる時節を迎えています。夏になれば心地よい風が吹き抜けます。また、自然の厳しさは、学生達を心身ともに鍛えてくれるはず。小誌では、そうした学生達や教職員の活躍を伝えていきますので、ご愛読頂けますと幸いです。

助教 齋藤恵梨子
助手 前田陽子、若王子未、上笠千春、杉田恵美
【昇任】平成二十年四月一日付け
講師 田中和子(助教)

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第22号

発行日/2008年5月26日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL.(0157)66-3311 FAX.(0157)61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp